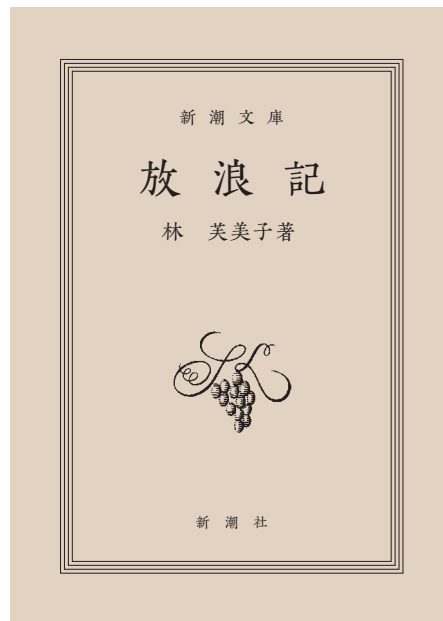


林芙美子著「放浪記」を リデザインします！



「放浪記」

林芙美子の自伝的な小説で、1922年から1926年までの彼女の日記を元に構成されています。小説は、第一次世界大戦後の日本を舞台に、母親との行商生活や、貧困の中で職を転々とする生活を描いています。

1928年から1930年に雑誌連載で発表。舞台化、映画化、テレビドラマ化もされた林芙美子の出世作

「林芙美子」

一貫して庶民の生活を共感をこめて描き、流行作家として明治・大正・昭和を駆け抜けた。作品に『風琴と魚の町』、『晚菊』、『浮雲』など。山口県下関市生まれ、尾道市立高等女学校(現・広島県立尾道東高等学校)卒

林芙美子は学生時代を
尾道で過ごしました。
当時の芙美子を想像させる
下記のイラストもしくは
写真を使ってデザインしてください！









